

平成 30 年度 第 1 回 貸出文庫新着案内

予約受付開始：平成 30 年 10 月 24 日（水）午前 9 時から

書名	著者	出版社	頁	内容説明
おらおらでひとりいぐも	わかたけちさこ 若竹千佐子	河出書房新社 (2017. 11)	164p	74歳、ひとり暮らしの桃子さん。夫に死なれ、子どもとは疎遠。震えるような悲しみの果てに、桃子さんが辿り着いた、圧倒的自由と賑やかな孤独とは…。新たな「老いの境地」を描いた感動作。第54回文藝賞、芥川賞158回(2017年下半期)
かがみの孤城	つじむらみづき 辻村深月	ポプラ社 (2017. 5)	554p	どこにも行けず部屋に閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然、鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が集められていた。胸に秘めた願いを叶えるため、7人は隠された鍵を探す…。2018年本屋大賞、埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017年第1位
銀河鉄道の父	かどいよしのぶ 門井慶喜	講談社 (2017. 9)	408p	家を継ぐべき長男だったが、学問の道を進み、理想を求め、創作に情熱を注いだ宮沢賢治。勤勉、優秀な商人であり、地元の熱心な篤志家でもあった父・政次郎は、この息子にどう接するべきか苦悩した…。紆余曲折に満ちた宮沢賢治の生涯を、父の視点から描く。直木賞158回(2017年下半期)
くさなぎ 草薙の剣	はしもと おさむ 橋本 治	新潮社 (2018. 3)	347p	世代の異なる6人の男たちと彼らの祖父母まで遡るそれぞれの人生を辿り、日本人の心の100年史を描く。戦後日本の行き着いた先である現代のありようを根底から問い直す、畢生の長篇小説。
げんちよう 玄鳥さりて	はむろ りん 葉室 麟	新潮社 (2018. 1)	246p	藩内で出世を遂げる三浦圭吾。しかしその陰には遠島を引き受けてまで彼を守ろうとした剣客・樋口六郎兵衛の献身があった。時が過ぎ、藩に戻った六郎兵衛は静かな余生を望むが、愚昧な藩主の企てにより二人は敵同士に仕立てられていく…。
光の犬	まついえまさし 松家仁之	新潮社 (2017. 10)	441p	助産婦の祖母の幼少時である明治期から、父母と独身のまま隣に暮らす父の三姉妹、子どもたちの青春、揃って老いてゆく父母とおばたちの現在まで。北の町に根づいた一族三代と、そのかたわらで人々を照らす北海道犬の姿を描く。深い静寂に満たされる長篇小説。第68回芸術選奨・文部科学大臣賞文学部門、第6回河合隼雄物語賞
本のエンドロール	あんどうゆうすけ 安藤祐介	講談社 (2018. 3)	381p	印刷会社の営業・浦本は就職説明会で言う。「印刷会社はメーカーです」。営業、工場作業員、DTPオペレーター、デザイナー、電子書籍製作チーム。印刷会社全面協力のもと、奥付には載らない本造りの裏方たちを描くお仕事小説。

- ・ 1タイトルにつき20冊所蔵しています。
- ・ 申込先：埼玉県立熊谷図書館 図書館協力担当

* 上記内容説明は「トーハンマーク」から引用
 TEL：048-523-6291（代表）
 FAX：048-525-2667（図書館協力担当直通）